

追加関連論文（その2）

（ウッドロジングリセリンエステル）

追4 渡辺敦光. 平成10年度食品添加物規格基準作成等の試験検査 ロジンの亜慢性毒性試験. 広島大学.

. . . P1

F344 ラット（各群雌雄10匹）に、ロジンを0、0.03、0.125、0.5、2.0%（雄；0、14、57、239、1,065mg/kg 体重/日、雌；0、17、72、282、1,067mg/kg 体重/日）で90日間混餌投与した。実験の全期間を通して動物の死亡は認められず、体重は雄2.0%群、雌0.5及び2.0%群で有意に減少した。摂餌量は体重の減少と相関して有意に減少した。血液学的検査では雄の2.0%群及び雌の0.5%以上の群で赤血球に対する毒性を示唆する異常値がみられ、血液生化学的検査並びに臓器相対重量では雌雄とも0.5%以上の群で肝臓、腎臓あるいは脂質代謝への影響を示唆する所見が認められた。これらの変化はロジンに起因する毒性変化であると考えられるが、ロジンのテルペン臭による摂餌拒否の影響も否定できない。0.125%以下の群でも、種々の項目で対照群に比べて有意な差が認められたが、変動は軽度であり、明らかな用量相関もなく、無毒性量（NOAEL）は雄で0.125%（57 mg/kg 体重/日）、雌では0.125%（72 mg/kg 体重/日）と考えられた。

追5 宮部正樹. 平成9年度食品添加物規格基準作成等の試験検査 食品添加物安全性再評価試験 変異原性試験（Ames試験）. 名古屋市衛生研究所.

. . . P21

細菌（*S.typhimurium* TA98、TA100、TA1535、TA1537、TA1538）を用いた復帰突然変異試験（最高用量20.0 mg/plate）の結果、S9mixの有無に関わらず陰性であった。

追6 栗田年代. 平成9年度食品添加物規格基準作成等の試験検査 変異原性試験；Chromosome試験. 財団法人残留農薬研究所.

. . . P37

チャイニーズハムスター培養細胞（CHL）を用いた染色体異常試験（+S9mixで100、200、400 µg/ml（6時間処理）、-S9mixで18.75、37.5、75 µg/ml（24時間処理）、15、30、60 µg/ml（48時間処理））の結果、染色体異常の誘発は認められなかった。

追7 栗田年代. 平成9年度食品添加物規格基準作成等の試験検査変異原性試験；マウス小核試験. 財団法人残留農薬研究所.

．．．P73

雄の Crj:CD-1 (ICR) マウスにロジン (75、150、300 mg/kg 体重) を 24 時間間隔で 2 回経口投与後に実施した骨髄小核試験では、多染性赤血球に対する小核の誘発は認められなかった。